

支援先

笠間焼協同組合、一陶など

笠間産資源を原料とする釉薬の開発



図 1 箱田石を用いた釉薬試験片
(三角座標)



図 2 箱田石を用いた黒釉試作品
(塩壺)

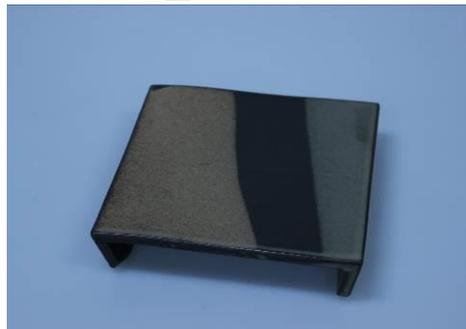


図 3 「四方台皿 笠間色」
(佐藤剛 作)

【研究の背景】

笠間焼協同組合では、笠間粘土 100%の素地で作った陶器をとくに「純・笠間焼」と呼び、産地ならではの商品開発や販路拡大の活動に取り組んでいます。当センターは、この取り組みに対して、素地の精製方法や焼成条件の最適化等の支援を行いました。

【研究の目的】

本研究では、笠間産資源を用いた釉薬を開発し、素地だけでなく釉薬も産地由来の原料を用いた「純・笠間焼」の商品開発支援を目指しています。

【研究の内容】

平成 26～27 年度は、笠間粘土、手越陶石、栗灰を用いて計 8 種類の釉薬を開発しました(表 1)。平成 28 年度は未利用天然資源である箱田石を用いた釉薬開発(図 1)を実施しております。

表 1 研究概要 (H26～28)

年度	用いた笠間産資源	開発した釉薬
H26	笠間粘土	白マット釉 黒釉 柿マット釉
	手越陶石	藁白釉 青糠釉
H27	笠間粘土及び手越陶石 (併用)	黄マット釉
	笠間粘土及び栗灰 (併用)	灰黒マット釉(図 2)
	手越陶石及び栗灰 (併用)	象牙色マット釉
H28	箱田石	黒釉 アメ釉

【成果の用途・実用化】

笠間焼陶芸家の佐藤剛氏(一陶)に灰黒マット釉(図 3)を用いた商品開発支援を行い、作陶展(H28.5.7～20, 回廊ギャラリー一門)を皮切りに新商品の販売開始に至りました。他の釉薬についても、配合提案から商品化にまで繋がる支援を実施しています。

基礎となった事業

平成 28 年度 試験研究指導費(標準)

現在の担当部門

工芸・材料技術部門 部門長 寺門 秀人 TEL:0296-72-0316
主任研究員 吉田 博和
嘱託 南部 比呂美
人材育成部門 部門長 尾形 尚子
嘱託 根本 達志